

# 古川高校見学感想文

恒例になった古川高校一年生世界史授業の記念館見学が今年も十二月に行われました。その感想文のなかから三編紹介します。

## 吉野作造について

渡辺浩輔

私が吉野作造という名を初めて知ったのは中学校の歴史の授業であり、まさか教科書に載るほどの人が古川市の出身だとは思ってもありませんでした。

「大正デモクラシー」という一つの大きな運動の波をつくり出し、「民本主義」を主張し国民の幸福を目指したということに強い関心と尊敬の念を抱きました。それと同時に吉野作造がいかに時代の先を行った思想の持ち主で、大正当時の社会体制にも屈しない強い信念と理想があったことが私には大変に羨ましく思えました。

今まで私は、自分自身の将来について不安を感じていましたが、吉野作造のような自分というものをしっかり持って、勉強

にもこれまで以上に身を引き締めて、今の段階から頑張ってい

けば自分の将来だって素晴らしなものになると思えるようになりました。そして、自分だけの意識に捕らわれず、周囲の意見にも耳を傾け、他の人に対して尊敬の念を持って接していきたいと思いはじめました。

今日、日本は国際化という時代を迎え吉野作造のように広い視野と教養を身につけていきたいと思いました。私はこのように歴史の人物たちの業績とその当時の社会背景を学ぶことにより、人というのは、自分の世界観を広めることができ、自分だけでなく、周囲にも良い影響が広まっていくように思えました。今回の「吉野作造記念館見学」は、自分にとって非常に勉強になり改めて歴史が好きになりました。

## 吉野作造記念館にて

早坂恭一

以前にも一度だけ「吉野作造記念館」に行ったことがある。

あの時はまだ小学生だったのでよく覚えていなかったが、中に入ると何となく記憶がよみがえった。大正・昭和という激動の時代を「民本主義」の思想で駆け抜けた吉野作造という偉大な人物を改めて知ることができたのだ。

彼が古川出身であることは既知の事実であったが、中学の時に古高の卒業生と教えられていたので、一高卒と知った時は多少驚いた。ここで改めて仙台一高という学校のすごさを感じた。東京帝国大学法科大学、当時は純粋なエリートが集結する大学で様々な人と交わり、多くのことを学び、キリスト教にも心酔した。

ところで、彼の一生のVTRが学芸員の説明を聞いて気づいたことが一つある。それは友人である。前に古高で講演なさっ

た東大の助教授の先生は、「私の人生の岐路においては常に友人がいた。」とおっしゃっていた。これは吉野作造も同じで、鈴木文治のような友がいなければ偉大な政治思想家として、その名を歴史に刻むことは無かったであろう。やはり友人の影響は多大なものがある。僕も古高に来て八ヶ月になるが、吉野作造のように互いを磨き合い、一生付き合えるような友人をつくりたいと思った。この見学はいろいろな意味で非常に有意義なものとなった。

## 感想文

黒沢 真

私はこの世界史の授業を通して、身近にいるたくさんの偉大な方達の一人である吉野作造博士のことをよく知ることが出来ました。日本の政治の有り方を考え、政治の中心を国民とした民本主義を主張しました。いまや日本を動かした方がこの古川にいたことは誇りに思ってもよいと思います。吉野作造博士は、中国へ渡り家庭教師をしたこと

もあるそうです。大人になってからほとんどこの古川に戻るこ

とはなかったと聞いています。それ程多忙な方だったのに、心の隅にはやはり故郷への思いがあったのか、古川学人というペンをネームですばらしい作品をつくり上げました。「路行かざれば到らず事為さざれば成らず」大まかな意味として、そのものが良かったか悪かったか、あるいはほとんどない事なのか、すべての事はまず初めに一步踏み出さなければ分らない。とにかく踏み出すことが大切である。このような意味である。この言葉は、どこでもいっても、だれにでも言えることのように思える。自分の欲求のために目標をもち、行動しそして結果が出る。この言葉にはたくさんのことが凝縮されているのだと思う。これからは、この吉野作造博士の後を追っていくようならばらしい人材がまたこの古川から誕生してほしいと思う。そして私もまた吉野作造博士のように前向きに、そして目標を持って生きていきたいと思う。たとえ、吉野作造博士のようなエリート街道ではなくとも、自分の良い点、長所を人より伸ばせるようにしたい。少しでも、少しでも自分の真念に近づけるようになったら、その時立派な大人になれると思う。